

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（12月27日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄
^{み としよかん}美図書館です。

今朝は、^{あまみとしよかん}奄美図書館の1月の新着図書についてご案内します。

まずは、一般書のご案内です。

1冊目は、今年の流行語大賞にもなった「今でしょ！」で有名な^{はやしおさむ}林 修さんの『受験必要論』です。この本では、受験が人生においてどうして必要かということについて、様々な角度から書かれています。例えば、社会に出たときに、答えのないような問題を解いて、物事を解決し、創造していかなければならないときには、豊かな「考える力」が必要になってきます。そこで、受験勉強の際に、分からない問題にぶち当たったとき、どうすれば答えがでるか必死に考える時間こそが尊いことで、そうすることが「考える力」を高めていくものだと言っています。そして、受験直前1か月前の受験生に対しては、「ひと月頑張れるということは実はすごいことで、ひと月頑張れる人は1年頑張れる。1年頑張れる人は、それを積み重ねて10年頑張れる。10年頑張れる人は結局、一生頑張れる」ということを伝えています。これからいよいよ受験シーズンになります。人生において大切な時期ですが、自信をもって頑張ってください。

2冊目は、^{きしもとようこ}岸本葉子さんの『ためない心の整理術』です。今の世の中は、情報が多くて早く、対応を要する連絡などが次々に入ってきますが、「ため込みやすい環境」に生きていくことは仕方のないこととして、だからこそ片づけが必要なのです。何もかも詰め込みすぎでは、うまく回っていきません。二割ぐらいのゆとりがあると、暮らしやすくなります。物だけでなく、心も「八割収納」を目指し、暮らしの上の工夫、人間関係の持ち方などさまざまな場面を通して、毎日を気持ちよく過ごせるような整理術が書かれているエッセイです。楽な気持ちで読んでみてください。

次に、児童書をご案内しましょう。

1冊目は、ケイト・メスナーさんの『ゆきのうえ ゆきのした』です。雪の上を、女の子がお父さんと、森の中へスキーですべっていきます。雪の上は、しんと静まりかえって真っ白ですが、雪の下には、まったく別のひみつの世界があります。

リスやウサギ、ネズミやウシガエルに、ビーバー、そしてクマまで、さまざまな生き物

たちが、思い思いの姿で、寒さや危険から身を守りながら、雪の下で暮らしているのです。

雪の上と、雪の下の様子が、交互に気持ちのいいリズムで語られていくお話です。最後には、本に登場した動物たちについての解説もあります。

2冊めは、赤羽^{あかはね}じゅんこさんの『がむしゃら落語』です。小学5年生の雄馬^{ゆうま}は、意地悪トリオの計略により「特技発表会」にかつぎ出されて、できもしない落語を一席演じることになってしまいました。たまたま知り合った冴えない若手^{はなし か}噺家に弟子入りしますが、この「にわか師匠」の頼りないこと。ひどい二日酔いだから稽古は無理と追い返されたり、恐竜みたいに吠えさせられたり、家事を手伝わされたりと、さんざんです。

それでも雄馬は、クラスメイトの「意気に感じる女の子」早川にも助けられて必死に練習を積みます。山あり谷ありの展開のすえ迎えた本番の舞台、工夫をこらしたオリジナルなオチを用意して臨んだものの、予想もしないテンヤワンヤの事態が起きてしまいました。さあ、雄馬はどうするのでしょうか！？

最後は郷土に関する本のご案内です。

奄美郷土研究会顧問の楠田^{くすだ とよはる}豊春さん監修の写真アルバム『奄美の昭和』です。奄美群島日本復帰60周年を記念して出版されました。戦前から戦後、日本復帰から当時の町並みや子どもたちの様子、各島々の年中行事など当時の様子が写真を通してよく伝わってきます。昭和の懐かしい思い出がよみがえってくることと思います。ぜひ、みなさん手にとってみてください。

今年も残りわずかとなりました。奄美図書館は年末年始の臨時開館として、12月29日・30日、明けて1月3日に開館いたします。開館時間は午前9時から午後5時までです。調査相談や貸出予約などのサービス提供はできませんが、本の貸出や返却、閲覧室や学習室の利用はできます。多くの方のご来館をお待ちいたしております。

来年も多くの方に奄美図書館をご利用いただければと思います。来年も良い年でありますように！

かごしまけんりつあまみとしよかん
鹿児島県立奄美図書館でした。